

西光

第174号
春彼岸
晋山式号

平成30年
3月2日発行

浄土宗西山禅林寺派

雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351

Fax 079-254-4142



春のお彼岸法要

3月18日(日)

13:00～ 彼岸会のお勤め

13:30～ 塔婆回向

14:00～ お説教

説教師

とうぜんし く がけんしやう
等善寺住職 久我儼昭師

(京都・河原町五条)

休憩(お茶・お菓子ををご用意しております)

15:00～ 塔婆回向

西光寺 第二十世 曉空靈閑

晋山式 (新住職の就任式)

4月21日(土)

10:00～ お稚児さん記念撮影

10:20～ 内仏法要

10:40～ 出立・稚児練り

11:00～ 開門式

11:15～ 本堂式

12:30頃終了予定

欲のはなし

お金の欲を 捨てなはれ
なんぼゼニカネ あつてでも
死んだら 持っていけまへん
あの人は ええ人やった
そないに人から 言われるよう
生きてるうちに バラまいて
山ほど徳を 積みなはれ

『ポケたらあかん長生きしなはれ』というシニアに向けた応援歌とでもいうべき歌の一部です。しかしそういわれてもできないのが我々人間であります。

『戦争と平和』や『アンナ・カレーニナ』などの作品で有名なロシアのトルストイの著作の中に「人には多くの土地があるか」という短い民話があります。

主人公の小作人の男は今よりもっと肥沃な、そして自分の土地が欲しいと思っていました。「土地さえあれば怖いものは何もない。悪魔だつてこわくない」と話すのを聞

いていた悪魔がこの男を地面のとりこにしてやろうと企てるのです。苦勞してなんとか土地持ちになった男は一生懸命働いて豊かな生活をできるまでになりました。そこへある旅人がもつと良く肥えた土地が安い値段で手に入ると言ってきました。そこで男は持っている土地や財産を全て売って新しい土地に移り住みました。すると確かに暮らしては十倍も楽になりました。そこへ来た旅人がやってきて、千ルーブルで好きなだけ土地を買えるという村があると云うのです。そこへ行ってみると村長は日の出から日没までに歩いた分だけの土地を千ルーブルで売るといふ。ただし、出発地点に戻ってこないとすべて没収となる。この男は歩く先々の土地が惜しくなり、あの川もあの野原もと歩みを進めていく内に、日没が近づき、一生懸命スタート地点に戻ってきたものの、無理をしすぎて死んでしまふ。同行していた召使いが男のために墓穴を掘りましたが、それは二メートルほどのちようど頭から足までが入る大きさのものでしたというお話です。

結局、男には自分に等身大の土地しか必要ではなかつたのです。この話は人間の際

限のない欲望を表し、それを戒めた童話ですが、仏教ではこのようなむさぼりの心を貪欲といいます。いわゆる煩惱の一つでこれを克服すれば苦しみから逃れられるといひます。

しかしそれができないのが人間です。少欲知足ということばがあります。ポイントは無欲ではないところです。やはり欲は無くないのです。だからといって開き直るのではなく足るを知ることが大事になってきます。以前、門前掲示板でもご紹介した相田みつをさんの「うばい合えば足らぬわけ合えばあまる」ということばをかみしめたいところです。

さて冒頭でご紹介した歌の続きがおもしろいので最後に紹介しておきましょう。

というのは それは表向き
ほんまはゼニを 離さずに
死ぬまでしつかり持ってなはれ
人にはケチと 言われても
お金があるから 大事にし
みんなバンチャラ いうてくれる
内緒やけど ほんまだつせ

続・欲のはなし

地獄と極楽の長い箸のお話し



先程の相田みつをさんの「うばい合えば足りぬ わけ合えばあまる」の詩は「うばい合えば地獄 わけ合えば極楽」と結ばれます。

もう一つおもしろい話があります。ある男が閻魔大王に地獄と天国はどういう世界なのかを聞いたところ、閻魔大王がそれぞれの様子を見せてくれたのです。

天国と地獄、どちらにも十分な食べ物を用意されていました。大きな鍋をみんなで囲んで食事を頂くのですが、天国でも地獄でも用意されているのは、長い箸でした。この長い箸を使って食べなければならぬというのが、天国と地獄、共通の決まり事でした。

地獄の人たちは、その長い箸で自分の口に食べ物を運ぼうとしますが、何度やっても食べ物はいぼれるばかりで食べることはできません。皆自分のことばかり考えているために、いつまでたつても何も食べることができず、飢えに苦しみ、そのせいで争いも絶えない状態なのです。

天国の人たちはというと、皆おだやかな幸せに満ちた顔で楽しくごちそうを食べていました。なぜなら、皆その長い箸を人のために使っていたのです。鍋を挟んで向かい側にいる人に「はい、どうぞ」と食べ物を届けていたのです。

春のお彼岸法要の

お説教師さま

この度の春のお彼岸法要のお説教師さんは京都 河原町五条の等善寺住職の久我儼昭師です。昨夏まで長きにわたって本山の宗務総長をお務めになつていました。

先代の通夜式の導師、また表葬式では甲辞を賜りました。本山の役職に就かれる前には、西光寺によくお説教にお越し頂いておりましたので、皆様の中にもご存じの方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。いずれ御前様になられる方です。このようなお説教を聞かせて頂けるのも今の内です。是非ともお誘い合わせてお参り下さい。



気になる…



線香を立てるあの器の「正」

線香を立てるあの器は香炉こうろといいますが、線香を立てたり、焼香をする時にお香をパパラとくべるあの器の「正」です。

仏さまへのお供えものは花、水、お茶、「飯」、果物、菓子などたくさんありますが、実はこの香炉はお仏壇のお祀りものの中でも最も大事なもののなのです。お祀りの基本は、左図の通りです。

「正」で注目すべきは、いずれも真ん中に香炉があるという点です。やはりお祀りの中心だということです。



五具足(ごぐそく)
真ん中に香炉、その両隣にロウソクを一对、そしてその更に外側に花を一对



三具足(みつぐそく)
真ん中に香炉、向かって右にロウソク、左に花

香典(香奠、香料、香資も同じ)とは亡き人に香を供えるということ。今では香の代わりに金銭を包みますが、主旨は亡き人に香を供えることです。我々お寺同士でも「献香」という形で上等な線香や抹香をお供えいたします。「香は仏使なり」ともいわれ、葬儀や法事などの際、焼香の煙にのせて自らの思いを亡き人に届ける役割があります。

お掃除の「正」



お香が大切であるならばお香を入れる(線香を立てる)入れ物(香炉)も同じく大切なものです。赤いお経の本(浄土宗西山勤行式)は一頁目ごんなお経で始まるでしょう。「願我身浄如香炉」私の身体は香炉のように浄らかなものでありますように。そうなんです。香炉は清らかにしておかねばならないのです。時に剣山のようにマッチの燃え殻が灰に何本も突き刺さっている香炉を見かけますが、これは×です。そこに灰があるのだからタバコのように要領で火消しをしたい気持ちには十分分かりますが、めんどくさがらずにマッチの燃え殻入れを用意しましょう。もちろんロウソクはマッチでつけないといけないということはありません。ライターでも大丈夫です。

また線香は必ず燃え残りが出てきます。立てた時に灰に埋もれる下の部分です。これがどんどんたまってくるとなかなか線香がうまく立ちません。特に真ん中付近はよく立てる分燃え残りが溜まってきます。どこかささる所はないかなくと各所をあたってみてもどこかさしもささる所がなく仕舞いには無理やり立てようとして線香が折れてしまったという経験はありではないですか。そこまできてしまつたらもう観念してください。めんどくさがらずに灰の掃除をしましょう。専用のお掃除グッズもありますが、茶漉しや網目の細かいザルで十分うまくお掃除できます。一〇〇均で十分です。下に新聞広告でも敷いておいて、その上で茶漉しやザルに香炉の中の灰をあげることができます。キーキを作る時の小麦粉をふるいにかけてような感覚です。そうすると下に敷いた紙の上にパウダー状のふわふわの灰ができますので、それを香炉に戻せばお掃除完了です。ふわふわの新雪に足を踏み入れるような感覚で、感動的なまでに線香が力を入れることなくすつと立ちます。どうぞお試しください。



寺子屋

<今後の予定>

3月29日(木)

5月8日(火)

6月6日(水)

7月5日(木)

午後1時半～午後3時

法然上人が貴族から庶民まで幅広い人々の質問に対して簡潔に答えている問答集(まさに寺子屋の教科書とでもいべき!)を読んでいます。今でも仏事に関することにはなにかと悩ましい事柄が多くあるものですが、昔は物忌み事項がたくさんあり皆もっと悩んでいたようです。

「数珠を持たずにお経を受けるのは?」「命日に神社にお参りしてもよいのか?」「酒を飲むのは罪か?」「亡くなった人の髪は剃るものか?」「説法は必ず聞かねばならぬものか?」「寝ても覚めても口を洗わずに念仏を称えてもよいのか?」「言うことが思い通りに成就しない時、仏をお恨みするのはどうか?」「念仏を称えている内に腹が立ってくるがどうすればよいのか?」等々次から次へとあるものですね。

花まつり



5月8日(火)はお釈迦様の誕生日です(月遅れ)。本堂前に花御堂を置いております。お釈迦様に甘茶をかけて誕生をお祝いいたしましょう。お墓参り、お散歩がてらお気軽にお参り下さい。この時期ならではの甘茶もご賞味下さい。

ご逝去の報

慎んでお悔み申し上げます。生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

西浜 入江芳子さん
(行年91歳)2月20日没

門前掲示板

二月のことば

口は一つ 耳は二つ

自分が話す倍

人の話に耳を傾けよう

自分のことは聞かれてなくてもペラペラ話してしまうものです。逆に人の話は興味ないといわんばかりに聞いているふりをしたり、話し終わらない内から自分の話をしたり…人の話に本当に耳を傾けるといふことは実は難しいことなのです。

三月のことば

寝て待てど

暮らせどおらに何事も

なきこそ人の果報なりけれ

何事もなく無事に一日を過ごすことができるというほど幸せなことはないのかもしれない。

西光寺 第二十世 暁空靈閑

晋山式

4月21日 (土)



1549年(天文18年)に西光寺が開創して以来、初代住職恵空慈道上人から先代第19世祥空靈雲上人まで470年に渡り綿々と受け継がれてきた法灯をこの度、不肖暁空靈閑が継がせて頂くことになりました。

就きましては、下記の要領にて晋山式(新住職の就任式)を執り行いますので、檀信徒の皆さま、地域の皆さま、どうぞご参詣下さいますようお願い申し上げます。

(10:00頃からお稚児さん記念撮影)

10:20～ 内仏法要

旧来は立宿^{たちやど}といって親代わりである総代宅でお勤めをして、そこからお寺へ出立・稚児練りをしておりましたが、今回立宿はございませんので、お寺のお内仏でのお勤めになります。このお勤めにはお稚児さんは参加しません。

10:40～ 出立・稚児練り(行列)

内仏法要が終わりましたら、いよいよお稚児さんにもご参加頂いて、新住職や他のお寺さんと一緒にお寺を出発して町内を練り歩きます(10～15分程)。どうぞ近隣の皆さま、沿道で歓声を送ってあげてください。

11:00～ 開門式

稚児練りからお寺に戻ってきましたら、山門(本門)前にて開門式を行います。この時に門が開き、文字通り新住職が入山、お寺に足を踏み入れることになります。

11:15～ 本堂式

開門式が終わると、次は本堂でのお勤めです。本山からの新住職の辞令、西光寺檀家過去帳などの伝達を受け、ご本尊に就任のご挨拶と誓いのことばを述べ、お勤めをいたします。このお勤めの中でお稚児さんには献花といって、仏さまにお花をお供えして頂きます。

※上記時間はあくまで目安です。進行状況によって前後いたしますので予めご了承下さい。12時半頃終了予定です。

